

3. 平成28年度秋期「防音の勉強会」 —「防音対策の初歩」—開催報告

一般社団法人日本音響材料協会
(Acoustic Materials Association of Japan)

平成28年度秋期「防音の勉強会」(講師：日本音響材料協会技術顧問・宮尾健一氏)が、ローレル三田会議室において開催されました。今回も多数の方々の参加を戴き、11月15日(火)と11月24日(木)の2回に亘って実施致しました。

「ゼロからのスタート—防音の勉強会—」は、防音を基本から学びたいビギナーを対象として、少人数で実務経験50余年の講師と一緒に勉強するのが特徴となっています。受講対象は、建築設計者、建築施工者、ディベロッパー、防音材営業関係者、建築系学生などで、これから「防音」の知識を会得したい方々ですが、毎回参加者は多様な分野に亘っています。

今回は、集合住宅企画関係者、建築設計事務所、建築施工会社、建築設備会社、防音材開発関係者、環境コンサルタントなどからの参加がありました。

内容としては、講師が長年に亘り防音問題に携わってきた経験から、誤りやすい事項などを重点的に解説されました。講義では、アニメーションを駆使したパワーポイントを用い、音の伝搬形式などのモデルを実際面に即して理解しやすいように説明していた。

項目としては、「音の常識・非常識」をはじめ、音の単位である「デシベル」の特徴とそれを基本とした防音対策の考え方、「空気音」と「固体音」の違いとそれぞれに対する対策方針、防音材の遮音・吸音・制振・防振の基本事項などをやさしく説明していた。

また、上記のほか、耳のしくみからの感覚量と騒音レベルの関係、ピアノ音の防音対策、アクティブノイズコントロール等についても解説していた。

特に、住宅品質確保促進法の要旨と、理解に時間がかかると思われる「重量床衝撃音の等級表示」について触れ、同法の有用性を強調していた。

復習の時間では、重要事項の再度の説明があり、質問の時間では、初歩的な事項、日常疑問に思っている事項、実務面での防音対策の方針などについての疑問・相談に回答していました。また、後日、メールによる質問も寄せられました。



この「防音の勉強会」はビギナーを対象としたものであるが、当協会では、毎年「音響基礎講習会(7月予定)」と「技術講習会(11月予定)」を開催しており、これらにもつながる勉強会である。

今後も「防音の初歩を学ぶ場」として、本「防音の勉強会(春季、秋季の2回)」を開催していく予定である(2017年度は、2017年5月下旬、10月中旬開催予定；当協会ホームページに掲載)。

今回の勉強会での質疑・回答は、次号(2017年3月刊行)に掲げます。